

ヒトの免疫機構を活性化して がん細胞への攻撃力を高めるインターロイキン 2

商品名：イムネース注 35

一般名：テセロイキン（遺伝子組換え）

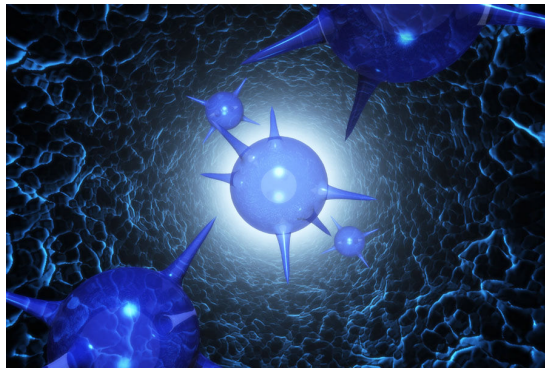
使用したバイオ技術：遺伝子組換え技術

技術の概要：ヒト脾臓由来のリンパ球から得た mRNA を出発材料として、遺伝子組換え技術により大腸菌内で産生したインターロイキン 2 である。

商品の特徴：インターロイキンとは、人の体の中でホルモンのような働きをするサイトカインの一種で、免疫細胞であるヘルパーT 細胞から分泌されるタンパク質である。インターロイキンはがん細胞に障害を起こす免疫細胞（ナチュラルキラー細胞（NK 細胞）、リンフォカイン活性化キラーT 細胞（LAK 細胞））を増殖させる働きがある。免疫細胞はがん細胞を攻撃し、結果的に腫瘍を小さくしたり、生存期間の延長を期待することができるかとされている。

1992 年 3 月に血管肉腫に対する医薬品として承認された。血管肉腫は患者数が 5 万人に満たないことから希少疾病用医薬品に指定された。1999 年には腎がんに対する効能追加が行われ、サイトカイン療法として定着している。

インターロイキン 2 により増殖した免疫細胞（イメージ図）



免疫細胞は金平糖のような突起を持ち、NK 細胞や LAK などとは標的となるがん細胞表面にある物質に結合してがん細胞を破壊する。

製造販売：塩野義製薬株式会社